

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回清須市子ども・子育て審議会
開 催 日 時	平成26年6月24日（火）午前10時から
開 催 場 所	新川ふれあいセンター 2階大会議室
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 委嘱状伝達</p> <p>4 会長・副会長の選出</p> <p>5 議事</p> <p>（1）子ども・子育て支援事業計画策定について</p> <p>（2）グループヒアリング及びワークショップの実施結果について</p> <p>（3）子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果（自由意見）について</p> <p>（4）保育ニーズの課題について</p> <p>（5）子ども・子育て支援に関する各種事業等の基準の検討について</p> <p>6 閉会</p>
会 議 資 料	<p>会議次第</p> <p>資料1 「子ども・子育て支援法」に基づく、「市町村子ども子育て支援事業計画」策定について</p> <p>資料2 子ども・子育て支援事業計画策定のためのグループヒアリング及びワークショップ実施報告書</p> <p>資料3 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果（自由意見）</p> <p>資料4-1 夢の森保育園の閉園に伴う一時的保育の実施園について</p> <p>資料4-2 一時的保育実施園の配置図</p> <p>資料4-3 保育園統廃合に関する考え方</p> <p>資料5 子ども子育て支援に関する各種事業等の基準検討について</p>
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	3人
出 席 委 員	小川委員、村瀬委員、日下部委員、花井委員、武井委員、塚本委員、中川委員、佐藤委員、川崎委員、安藤委員、星野委員、建部委員、原田委員、中田委員、福田委員、久保委員、小原委員

欠席委員	堀田委員、谷委員
出席者（市）	濱島健康福祉部長、浅田学校教育課長、
事務局	〔子育て支援課〕 林健康福祉部次長兼子育て支援課長、杉村主幹、伊藤課長補佐、 石黒主任主査、岩田主任
会議録署名委員	建部委員、原田委員

1 開会

●事務局

皆様おはようございます。

定刻となりましたので、ただ今から「清須市子ども・子育て審議会」を開始します。

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、議事に入るまで、進行役を務めさせていただきます子育て支援課の林と申します。よろしく願いいたします。本日は傍聴者の方がお見えになっています。傍聴者の方に入場していただいておりますので、よろしく願いいたします。

それでは開会にあたりまして、濱島健康福祉部長よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

●健康福祉部長

あらためましておはようございます。今年4月から健康福祉部長に就任しました濱島と申します。本年度第1回目子ども・子育て審議会にお集まりいただき、ありがとうございます。皆様方には子育て支援をはじめ、市政の各方面に渡りお力添えをいただいております。感謝申し上げます。

平成24年8月に国において「子ども・子育て関連3法案」が成立し、27年度から新たな「子ども・子育て支援新制度」が本格的に施行される予定です。清須市においても国の動向等を踏まえ、新制度に向けた子ども・子育ての支援事業計画を策定することになっています。皆様方にはこの計画の策定にあたりまして、豊富な知見や子育ての経験、専門分野の立場からの忌憚ないご意見をいただき、ご審議を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。この計画を、清須市で安心して子どもを産み、育てることができる大きな方向性を示すものとして、子育て支援に取り組んでいきたいと思っております。今後とも皆様方にはご理解とご協力をいただくことをお願いしまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

3 委嘱状伝達

●事務局

次に委嘱状伝達に移ります。委嘱状については、時間の都合上、あらかじめ自席に委嘱状を置かせていただいております。よろしく願いいたします。委員の紹介につ

きましてはお手元の配布の委員名簿に変えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。尚、今回、新たに委員に就任していただいた方のみご紹介させていただきますと、星の宮小学校 PTA 会長の武井様、西枇杷島保育園保護者会会長の佐藤様、公立幼稚園代表ということで西枇杷島第1幼稚園 PTA 会長の川崎様、小学校の校長先生を代表して星の宮小学校校長の久保様に新たに就任していただいております。よろしくお願いいたします。

4 会長・副会長の選出

次に、会長及び副会長の選出をします。子ども・子育て審議会条例第4条により、委員により定められています。昨年度と今年度の2か年にわたる審議会にて、本年度は特に子ども・子育て支援事業計画策定が主な審議内容になっております。従いまして、会長、副会長選出にあたっては事務局案にて皆様へお諮りしたと思います。宜しいでしょうか。

(異議なし)

異議なしとのお言葉をいただきましたので、昨年度と同様、会長には社会福祉協議会会長の小川様、副会長には保育園保護者会会長の佐藤様にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る前に本日の出席状況をご報告いたします。本日は堀田委員、谷委員がご欠席との連絡をいただいております。本日は委員の過半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立するものをご報告をいたします。

会議及び会議録につきましては、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱において、個人情報など非公開という扱いをしているものを除き、原則公開することになっております。従いまして、本会議及び会議録は公開とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。会議の議事進行につきましては規定により会長が議長を務めることになっております。小川会長よろしくお願いいたします。

5 議事

- (1) 子ども・子育て支援事業計画策定について
- (2) グループヒアリング及びワークショップの実施結果について
- (3) 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果（自由意見）について
- (4) 保育ニーズの課題について
- (5) 子ども・子育て支援に関する各種事業等の基準の検討について

○会長

おはようございます。

昨年から（会長は）続けて、ということが条件らしいので、僭越ながらお引き受けさせていただきました。現在、社会福祉協議会会長を務めております。子育て以外にも高齢者の問題も大きな問題になってきています。皆様方のご協力を社会福祉協議会にもいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。副会長の佐藤委員さんのお助けを得て、無事に務めさせていただきたいと思っております。

さて、昨年に続いて、ということですが、昨年は、子ども・子育てのニーズ調査が主でした。年間4回ほどの会議がありました。本年度はその結果を踏まえて、計画を策定していくことになっています。清須市の子育て家庭や地域の実情を踏まえた素晴らしい計画が策定できますように、昨年より委員に就任されている皆さん、新たに委員に就任された皆さんからも新たな立場でのご意見もいただきながら、良い形でこの会議が進んでいけばいいと思っております。ご協力をお願いいたします。

それでは会議に入ります。本日の会議の会議録の署名委員を建部委員と原田委員にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、本日は議事が5つあります。最初に事務局から一括して説明をしていただいた後で、ご意見ご質問などを項目ごとにいただければと思います。よろしく申し上げます。では、事務局、申し上げます。

●事務局

（事務局説明）

○会長

はい、ご苦労様でした。膨大な資料を丁寧に説明していただいたわけですが、会議が始まって既に1時間以上経過しております。細かくあちらこちら議題をつついても始まりませんので、司会の私から順番にご意見、ご質問をしてください、というように進行していきたいと思っております。第1回ということですが、国から出されたものに意見をしても仕方ないですし、市の基準としてつくられたものに意見を出せる場も、今後考えていただけたらと思っておりますので、まずは、国のこと、子育て中の保護者の意見、市の状況、具体的には夢の森保育園の閉園のこと、などが大きく出ています。どこにポイントを置くかは別にして、おおむね5分くらいずつで、意見がありましたら、ということで進めていきたいと思っております。

それでは、議事の順番に従って進めていきます。（1）子ども・子育て支援事業計画策定について、これまで行ってきた次世代育成の上に、新たに（内容が）第4章から入ったという説明もありましたが、ご意見があればお願いします。

どうでしょうか。新しい子育てが27年度から始まっていくということで、数的な間違いがないように事務局をお願いをしていきたいと思っております。ただ、これまでつくってきた清須市次世代育成支援行動計画は、これはどうなりますか。

●事務局

次世代育成支援対策行動計画とは少し変わってきます。次世代行動計画は、あくまで子育て支援全般を掲げていますが、今回は大きく3つの柱ということで、幼児教育・

保育・地域での子育て支援について、受給計画を立てていくものであります。

○会長

清須市にはこれまでもしっかりしたものがあつたわけですが、その上に、また新たな視点でということですね。(1)は少し固い内容ですが、まだ(ご意見も)あるかと思しますので、議事(2)に移りたいと思います。グループヒアリング及びワークショップの実施結果について、実際に子育てをしている方、支援している方の立場でご意見がいろいろ出ていますが、ぜひ、ということがありましたらお願いします。

○委員

ご苦労様です。事前にこの資料を見せていただき、きめ細かく行政が行ってくださっているので感謝しています。住民のお母様からもそのように聞いています。

私もヒアリングに参加し、なるべくお母さんたちのそばで話を聞いてみようと思ひ、良い意見があつたらまとめて少し話をしたいと思っています。どこのヒアリングからも“親”のことが書かれています。子育てに関するサービスや支援は充実していると思いますが、子どもの背景には親がいます、親の置かれている立場は以前とかなり変わってきています。この変化への対応はあまり見られていません。私も長く親育てに関わり、この変化に気づいたのは10年前ですが、親を支えたり、受け入れたり、話を聞いたり、と親自身と向き合いながら問題を解決する方法はないか、と考えてきました。そのような具体的な方策がなかなか見受けられません。そこで、質問をさせていただきますが、資料にも「親の差がある」とありますが、本当にそうです。たいへん熱心な親、すごく考えて愛情を込めている親と、子育てが分からない、どうやったら良いか分からないという親との差がたいへん大きいです。そういう方たちが一緒に、幼稚園、保育園、小学校、中学校に行くことになります。そこで、親の抱えている問題をもっと取り上げていく場がないか、何を困っているのか、どうしてその問題が起こっているのかをもう少し紐解いた計画はできないかと思っています。再度、ニーズに応じて欲しいと思います。ヒアリング全体から見えてくる課題の中でも、親育てをしたらどうか、親同士の交流の場をつくったらどうか、学習の場をつくったらどうか、など親育てに関することがたくさん書いてありました。私たちは、4、5年前から親に向けた“親の育ち”を行っています。県が作成した“親の育ち学習プログラム”が各市町に配布されているはずで、私たちやここにいるネットワークも皆さん勉強をして、今、取り組んでいます。それを知っているかもまだ分かりませんし、浸透してないと思いますが、清須市では、星の宮、新川小学校も、新川中学校も取り入れています。清須市の中では新川地区だけなので、もっと広げようと思っています。実際に、親の親育てをしたときに、親御さんからとても貴重な意見をいただきました。いただいた意見を活かす場がないのはもったいないと思っています。親育ちの現場から見えてくること、こういうことで、こんなことで悩んでいるという皆さんの意見を聞き、具体的なことから解決ができると良いので、もう少し、親育ち、親に寄り添うことに力を入れてもらえると、子育てがもっとスムーズに進むと思います。子育てサービスがこんなに充実しているのなら、裏に隠れている親御さんのことも考えてほしいと思

います。

もう1つ、気になった言葉があります。「割り切って子育てをしている」保護者が増えていることが気になります。何を、どう割り切っているのか。また、そういう（子育て支援の）場所があるから頼れば、全部を託せば良いということではなくて、親にしかできないこと、行政には行政でできることがあるということ、私は直接、親御さんに言いたいです。制度が充実してありがたいということは確かにありますが、それだけで子育てをするわけではないです。親にしかできないこと、親がしなくてはいけないことがあり、年齢によっても違いはありますが、それが分かってない親御さんがいると思います。この点は今後の子育てに大きく関わることです。親に向き合う重要性があると思います。

また、お母さんが圧倒的に多いですが、その場にたまたまお父さんが来ていると「こんな良いことをしているのだったら、親父の会でもやってほしい」「父親の言い分も聞いてくれ」と言われます。今は、父親も子育てに加わろうということで、父親にも父親の悩みはあります。それも具体的なことが分からないので、ワークショップのような形で集まって自分が学びながら答えを探し出そうとすると、親自身が自分で何ができるかを考える場にもなります。そんなことから始めたら良いと思います。もう少し具体的に行政側で取り組んでいただけると良いです。ボランティアでは限界があります。やれる範囲では行っていますが、いつも壁にぶつかり限界を感じています。行政と協働で取り組めたら良いなと思います。今、代表でいらっしゃっている若い方からも意見を聞きたいと思います。

○会長

ありがとうございます。審議会の立場から、事務局の返答がありましたらお願いします。

●事務局

はい。たいへん貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。子育てに対する親の差、割り切って子育てをしている親、について、どういったことか考えてみました。行政の行う部分と、親が行う部分を割り切っているのか、そういうことなのかと、痛感しているところです。このような現状も踏まえてまいりますが、基本的には子育ては一義的には親が行うもので、そこを支援していくのが行政であると、考えております。今回の計画策定にあたっては、そうしたことを踏まえて、取り組んでまいりたいと考えています。

○会長

ありがとうございました。ご意見はそれぞれお持ちだと思いましたが、本日は第1回ということで、ご意見をどう反映していくかも考えていかなくてはいけないと思います。原田委員がおっしゃったような親育ちを計画の中に取り入れていくよう考えていきたいと思っています。

○委員

お母さん方がどう思っているか、本日、いらしている方にも聞いて欲しいです。

○会長

時間が決まっていますので、全員の方にお聞きすることは難しいです。

○委員

前もそのような、時間がないということでお話を聞かずに終わってしまったので、もったいないです。

○会長

子育て世代代表ということで安藤委員お願いいたします。

○委員

時間がない中ですみません。親育ちというと、自分もできているかな、と不安があります。割り切っている親がいると聞くと、行政のサービスを、自分が楽をするためのものにしてはいけな、と思います。やはり子どもと親が楽しめることがいちばんだと思います。子どもを中心に、安心して育てていけるようなサービスが良いと思います。

○会長

その他ございますか。

○委員

親にも偏りがあるという話で、おそらく、見えている偏り以外のさらに下の層が一番心配なところだと思います。では、自分がどこの位置にいるのか、は自分では判断できないですが、子どもの友だちが自転車遊びに来て、「(遊びに来ていることを)お母さんは知っているの?」と聞いても「お母さんは知らない」と、午後6時になっても、7時になってもその家において、(習い事の)そろばんの鞆を持って来てはいますがいつ帰るのか、「6時になったから帰りなよ、時間だから帰りなよ」と言っても帰らないのです。「そろばんがあるんじゃないの?」と言っても「うーん」と言ったままで、お母さんもそれを知らずに、お母さんの帰りに合わせて7時くらいに帰っていくような子どもがいます。それは男の子が多いように思いますが、そんな感じのお母さんたちはこういう場があることも知らないでしょうし、原田さんたちのサポートの中にも入ってない層だと思います。ここが一番心配です。それに比べれば、何を相談したら良いか分からない親はまだ(心配まではしなくて)良いのではないかと、思います。

○会長

はい。ありがとうございました。いろいろなところで情報交換といいますが、学校には学校教育がありますが、3歳児未満となると、何と評していいか、分かりませんが、国では50年後に人口1億人を維持しないということで、若いお母さんに呼びかけていました。人口が低下すれば日本が潰れてしまうと、子育ての原点を(訴えて)いくのでは、と思います。

それでは(3)自由意見として出てきている、子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果に移ります。こちらを見て、ご意見がありましたらお願いします。宜しいでしょうか。

ここはこんな意見がある、要望があるということで、計画策定の場で活かしてもら

う、活かせるところは活かすという形でお願いしたいと思います。

(4) 保育ニーズの課題について、に少し時間を取りたいと思います。どうぞ。

○委員

資料4-3の事務局の見解のところ、清洲小学校区において花水木保育園が大きく新しくなったわけですが、その対応だけでは難しく、新清洲保育園、一場保育園の耐震化等を早急に検討する必要があるとおっしゃっていただき、市としてたいへん貴重な考えであると嬉しく思っています。私は新清洲保育園の近くに住んでいて、よくお母さん方と出会って話もします。花水木保育園に新清洲地区から通っている方もいて、線路を渡って保育園に行かなくてはいけないのです。特に0歳児、2、3歳児は雨の日も風の日も自転車に子どもを乗せて行かなくてはいけないという非常に危険な住環境、通園環境があります。この辺りのことも考えていただきたいです。人数的には新清洲保育園は100名が定員で、今は90名くらいで定員を割っていると数字的には見えますが、花水木保育園へ通園している方も少しいるように思いますし、特にこれからは女性の社会進出ということで、どこの保育園でも0歳児保育利用が増えてきています。新清洲保育園も来年度の乳児数は25人、さらに28年度は27人というように見込まれていますので、私自身も女性の社会進出はとても重要だと考えています。この点も考えていただいて、新清洲保育園の耐震化、又はそれに相応するような対策を考えていただけたら有難いと思っています。

○会長

ありがとうございました。地理的な条件も含めながらということですが、事務局の見解が資料4-3にも出ていますように考えているということですが、事務局から返答はありますか。

(小原委員がここで退席のために、意見をいただく)

○委員

いつも感じることですが、ここにいらっしゃるお母さん方の意見は自主的に、自分で考えていて、とても興味深いと思っています。全体を通して思ったことは、情報の伝達という点で、いろんな層の、いろんな子育ての考え方、価値観の方がいるということで、情報をインターネットやフェイス・トゥ・フェイス、ガイドブックなど、情報がきちんと伝わるように考えていく必要があるなと思いました。個人的には文部科学省や厚生労働省の子育て3法などのお話を聞いていて思うのは、地域に特化した特色を出していくことが非常に大事だということです。今後のことになるとは思いますが、家庭的保育事業等に関して清須市がこれからどのように考えていくのか、この点について一時的保育が増加している面からも、きめ細かい家庭的保育事業というものを清須市がどのように考えていくのかをお聞きしたいと思いました。

今後、子どもたちの成長や親育てを考えていくときに、保育士の不足が国としても重要な課題となっています。潜在的な保育士、資格を持っていても保育の仕事についていない、リタイアした、あるいは園とのマッチングがうまくいっていない、というような潜在的な保育士のニーズをどうやって掘り起こしていくのか、保育士をどう研

修していくのか、養成校との連携、地域との連携等を含めて、親を育てる子どもを育てる意味でとても重要なキーマンとなる保育士の養成、制度的な保育士の掘り起こしというのも今後、お聞きしたいと思います。

最後に、お母さんたちが一方的に、ただ行政から与えられたサービスで満足できるとは思えません。お母さんたちは自主的に学びたいし、自主的に考えていきたい、学びの中で連携していきたい、連帯感を持っていきたいと考えているのではないのでしょうか。自分たちが主体的に何かを提供していくという、持っているものを引き出すようなサービス、抽象的な表現ですみませんが、そういったサービスがあると良いかな、と思いました。お話の途中ですみませんでした。

○会長

ありがとうございました。では、新清洲保育園にご意見をいただいたので、事務局としての考え方は見解に書いてあるように、これが良いということと、交通事情やさまざまな面も考慮して、ということでしたが。

●事務局

この地域の保育ニーズに応えるためには、施設改修も含めて検討していく必要があると思っています。しかしながら、こうした事業を進めるにあたっては、財政面も踏まえて総合的に考えていく必要があります。新清洲保育園と一場保育園の両園とも耐震化することはできるものではありません。しかし、そうした中で、優先順位を決めて取り組んでいく必要があると思っています。大事なお子さんを預かる以上は安心して預けることが出来る環境を整えていく必要がありますので、事務局案にあるように早期に検討し、可能な限りご意見に沿うような方向へ向けて進めていきたいと考えています。

○会長

進め方を考えている、ということをお願いします。後は、夢の森の閉園について、春日の方で関連される方、いかがでしょうか。

○委員

3歳児の娘を持つ母親です。夢の森保育園の一時的保育で昨年、預かってもらっていましたが、枠が3名ということで、毎月20日に（保育を）希望される方がみえますが、毎回争奪戦になります。保育園に次の年に入りたくても仕事がないと保育園に入れる順番が遅くなってしまうので、結局、仕事を探すのに預ける先がないと仕事にも就けない状況です。仕事をする条件として「子どもをどこかで預かってくれますか？」と聞かれることが多々あるので、やはり一時的保育が利用できないとなると（困ってしまう）。春日地区はもちろん、他にも預けたい方はたくさんいると思うので、是非ネギヤの方に枠を増やして継続してほしいです。

○会長

はい、ご意見、要望ということでしたが。

●事務局

はい。一時的保育の枠が3名で争奪戦になっているというお話でしたが、こちらに

についてはご意見を踏まえて検討していかなくてはと思いますが、まずは実際に入っているお子さんを優先していきたいと思います。定員の枠の余裕のあるところで一時的保育は運営していきたいと考えています。ただ、星野委員が言われた20日の申し込みの際に希望がすべては叶わない場合もあると思いますが、今は申し込みの際に希望を聞きながら、調整しながら入っていただいていると思いますが。

○委員

(決めるのに) ジャンケンですね。

●事務局

希望日が重なると、お互いに譲り合って決めているところもあります。一時的保育の定員については、将来的な入所状況を踏まえて検討してまいりたいと考えています。

○会長

はい。事務局の前向きな返事ですので、皆さんが不安を持たないように、ということで審議会からもお願いします。

では、(5) 各種事業等の基準の検討について、とありますが、これは市で条例をつくりなさいという最後の資料5です。何か、気がつかれた点などありましたらお願いします。

○委員

国も今、子育てで“家庭的な”雰囲気をつくれといっています。家庭力を身につけよう、家庭の持っているものを保育園等にも活かそうとしています。家庭力がとても大事だと、国がそれを取り組みながら、規模や内容を照らし合わせたのかな、とも思いますが、子どもが育まれていく家庭をもう一度見直すこと、預ける場所も単なる施設でなく、家庭の延長として家庭の雰囲気を大事にするという意味で私は捉えています。清須市にもそれが活かされると良いと思います。

小原委員が言われた、眠っている指導者、先生でなくても子どもをみってくれる人がたくさんいれば、一時的保育でもみる方がいれば枠は増えると思います。3人とか5人とか決められないこともあります、たまたま1人ということもあります。お母さんたちが動くのではなく、見守る人が動くくらいの(子育て支援の)温かさがあればいいと思います。もっと皆が家庭的なものを園でも施設でも得られて、安心して子育てができるようになると良いと思います。

○会長

ありがとうございました。問題はなかなか解決されないでしょうけれども、この辺りで第1回目のまとめとさせていただきたいです。今、家庭の力というよりも、地域の力と言われています。ケアプランでは、10年先には医者も病床もないと思うと、そんな状況が来るといわれています。ではどうするか、というと地域の力だ、ということを出しています。同じようなことで、子育ての中でも地域の力というものが必要で、どの会議でも出てくる言葉ではないかと思っています。子育て中の人も、後期高齢者でも地域で安心できるようにしたいと思っていますので、この後も何回か会議がありますのが良い方法をご提案いただけたらと思います。

ということで、大事なことがたくさんある審議会ですが、皆さんにご意見をいただいてより良いものにできたらと思います。また次回も期待したいと思います。本日はありがとうございました。これで会議を終わらせていただきます。事務局にお返しします。

●事務局

本日、皆様からいただきました貴重なご意見等を踏まえまして、次回の審議会では、平成27年度の新制度にあたっての「子ども・子育て支援事業計画」の素案を提案させていただきたいと思っています。次回の会議の日程につきましては、概ね8月の末頃を目処に開催してまいりたいと思っていますので、よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

6 閉会

上記のとおり会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成26年 7月14日

委員 建部 憲子 ㊟

平成26年 7月11日

委員 原田 晴美 ㊟